

Q 小中学校における防災計画及び避難訓練の現況について伺う。

A 学校保健安全法により、教職員が円滑かつ的確な対応を図れるよう危機管理マニュアルを作成している。同マニュアルは万が一の災害発生に備えて、地震被害を想定した教室内外の安全点検の実施、災害発生時の児童・生徒の保護者への引き渡し方法等の周知及び訓練の実施を盛り込んでいる。今後とも児童・生徒の生命の安全を確保するため、様々な災害に備えてマニュアル等の調査・研究をしてまいりたいと考えている。

(教育次長)



ふるさと納税について

Q 総務省の返礼品等についての指導から、本町へのふるさと納税額の減少が予想されるが事業への影響はないのか伺う。

A 総務省通知に対応するため返礼品を3割以下に設定し、地場産品以外の返礼品については、全てポータルサイトから削除しており、9月1日時点の調査結果では、境町は「見直し済み」とされた。来年度においても平年並みの予測も立つことから、まったく危惧することはないと考えている。また、この制度はいつ無くなるか分からない制度であると理解して当初から事業を実施していることから、もし無くなった場合でも影響がないよう今後とも各種事業を実施してまいりたいと考えている。

(町長)

Q 返礼品に体験型農園などの取り組みも必要と思うがどのように考えているのか伺う。

A 県内でも12市町が返礼品として取り扱っているが、申し込み件数が伸び悩んでいる現況であり、

今後は交流人口の拡大を含めいろいろな施策を検討したいと考えている。

(秘書公室長)

公共交通機関について

Q 公共交通機関システムの検討の進捗状況について伺う。

A 昨年度は状況調査と、町民及び公共交通機関の利用者等に対してアンケート調査を実施し、今年度はその結果を踏まえ、町の課題等を整理するなど計画策定の土台を整備している。多方面からの意見やニーズを計画に反映させるべく「境町公共交通活性化協議会」を設立する準備も進めており、今年度中に計画策定の見通しとなっている。

なお、協議会設立後はコミュニティバスの手法や、車にセンサーを搭載して車の位置やスピード、走行環境等の情報を集め、そのデータを人工知能が解析して理想的な走行を実現する自動運転導入など、幅広い手法を検討してまいりたいと考えている。

(秘書公室長)

議会活動

仙台市農業園芸センター視察

10月25日に、仙台市において運営されており、農業サポーター養成講座(愛称…せんだい農業校)について3名の議員で研修してまいりました。

近年、仙台市では『食』や『生産の喜び』に関心を持ち、市民農園や家庭菜園で農業に親しむ市民が増える一方で、農家においては農業者の高齢化や担い手不足が深刻化している状況でありました。そこで、農業に触れ親しみたい市民と、短期的な繁忙期に人手が必要な農業者、双方の思いを満たすため、平成14年度から農業サポーター事業を実施しております。

内容は、全17回の講義・実習等を行い14回以上(80%以上)受講した方に対して修了証が交付されます。修了生はサポーターとして仙台市に登録し、登録農家と直接連絡を取りサポートを行っております。しかしながら、この方法で